

写真26 縄文土器 (2)

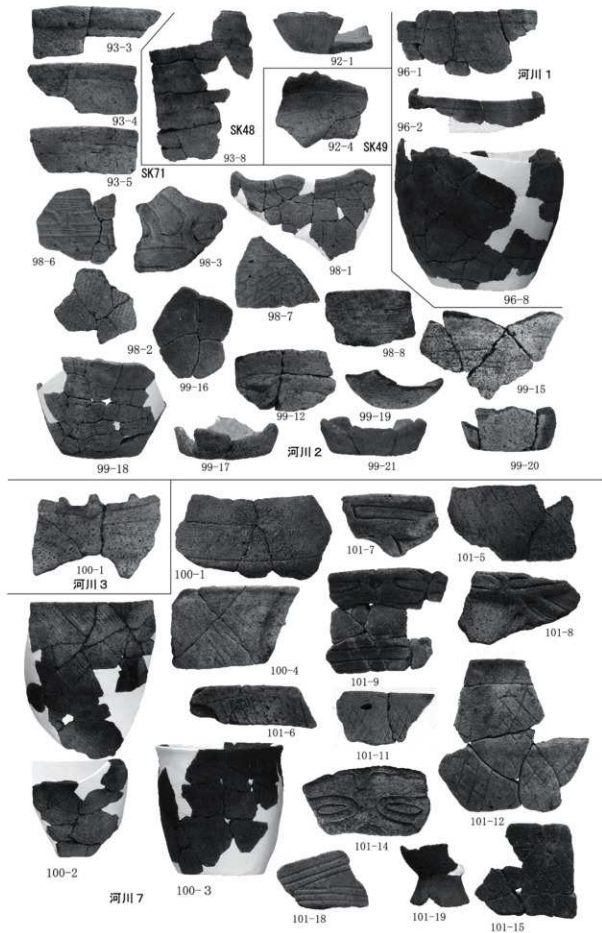


写真27 縄文土器 (3)



写真28 縄文土器(4)、土製品

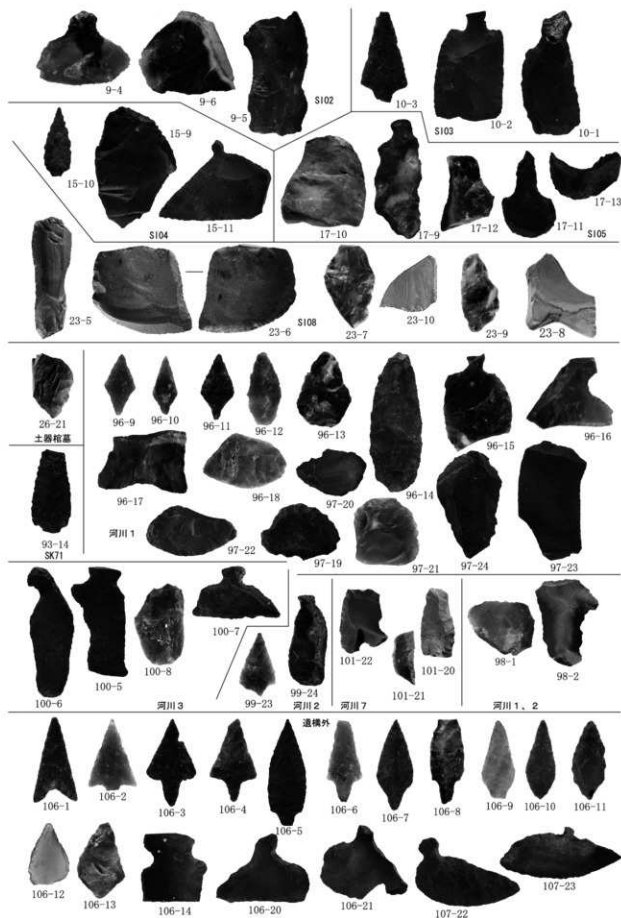


写真29 剥片石器(1)

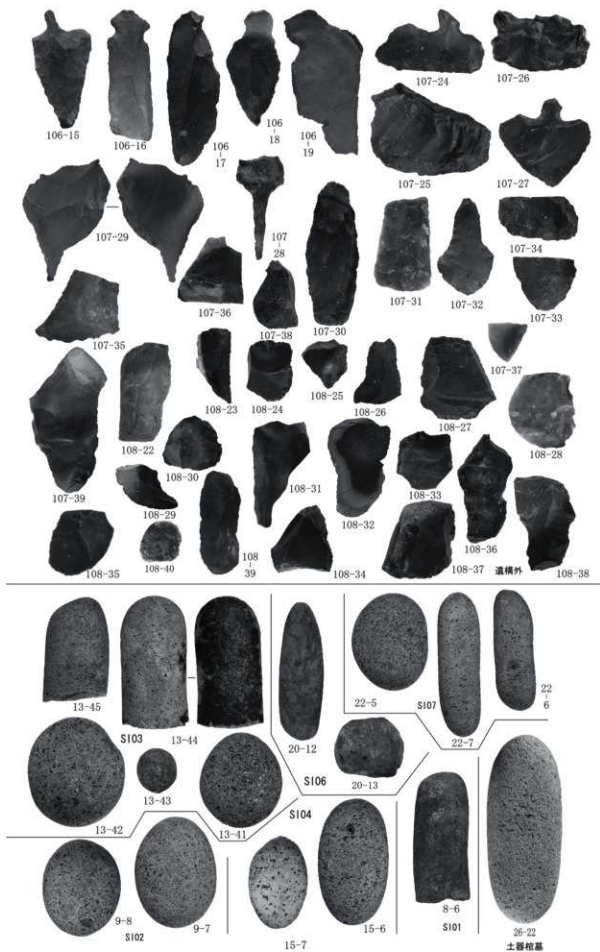


写真30 剥片石器(2)、礫石器(1)

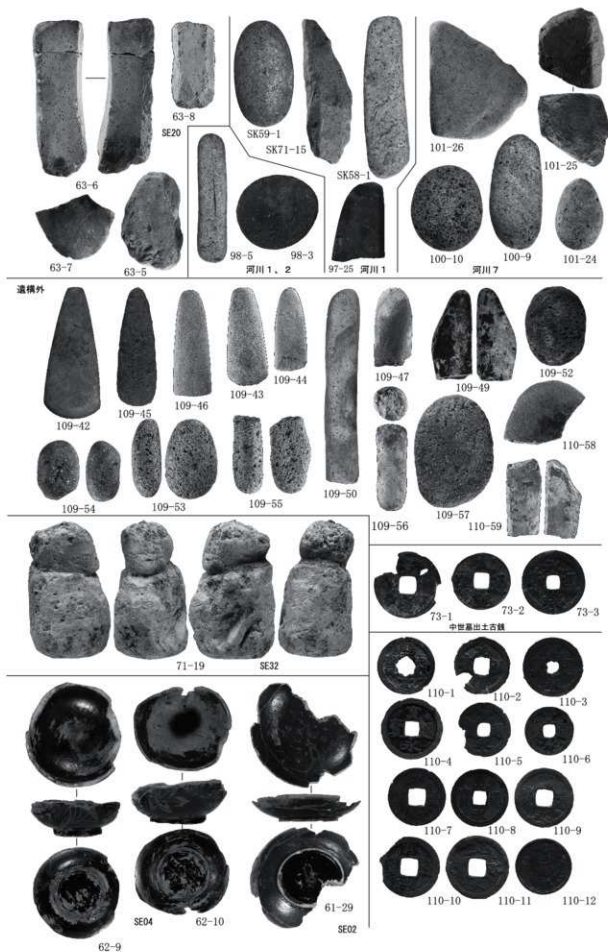


写真31 礫石器(2)、石製品、古銭、木製品(1)

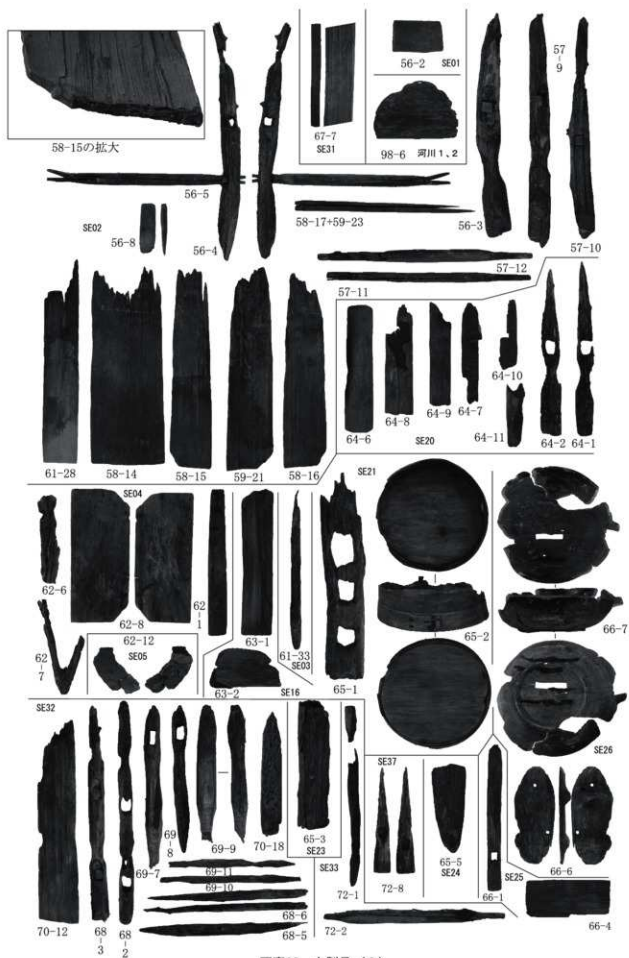


写真32 木製品 (2)



写真33 陶磁器 (1)



写真34 陶磁器 (2)

報告書抄録

ふりがな	よねやまかっこにいせきよん
書名	米山 2 遺跡
副書名	青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 集
編著者名	大湯卓二 笹森一朗 杉野森淳子
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒 青森市新城市天田内
発行機関	青森県教育委員会
発行年月日	西暦 年 3 月 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		旧日本測地系 Tokyo Datum	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
		市町村	遺跡番号					北緯 東経
よねやま かっこにいせき 米山 2 遺跡	あおもり し あおぞろ 青森市大字 みやの字 米山 、他				}	m ²	青森県新総合運動公園建設事業に伴う事前調査	
				世界測地系 .GD				
				北緯 東経				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
米山 2 遺跡	散布地 集落跡	縄文時代前期後半 中期後葉	竪穴住居跡	軒 土器：円筒下層 d 式 土器：椀林式、最花式 大木 式併行期	土器棺墓には赤・ 黒色を塗布された壺 型土器 1 個、深鉢土器 4 個が埋納されてい た。 7 号河川跡から、 赤色塗料付着礫 台石 出土。		
		後期前半	竪穴住居跡 土器棺墓 土坑	軒 基 土器：後期初頭、十層内 式			
	後期後半	竪穴住居跡	軒	土器：十層内 一 式 土器：大洞 A 式			
	縄文時代晩期 時期不明	炉跡 河川跡	基 箇所	剥片石器 石鏃・石匙・ 石鏃・鏃器・削器・二次加工剥 片・使用痕のある剥片・剥片・ 石核・礫石器 磨石・敲石・ 凹石・石皿、石棒、靴石製品、 円盤状土製品			
散布地 生業	古代 中世	中世以降も含む	竪穴遺構 井戸跡 カマド状遺構 中世墓 焼土遺構 集石遺構 土坑 溝跡 ビット	基 基 基 基 基 基 基 基 個	井戸跡から木製品 井戸枠部材・塗椀・漆 塗片口鉢・漆皿・箸・曲 物・下駄・折敷、石像、 種子、貝出土 中世墓から銭貨 3 枚出土陶磁器 珠洲焼・ 瀬戸産陶磁器、磁石・ 台石、	建物の部材を井戸枠材へ転用	
			近世	掘立柱建物跡	棟		肥前系陶磁器、土人形、 銭貨
			時代不明	土坑 河川跡	基 基		

要 約	<p>本遺跡は、縄文時代の集落跡と中世の生産の場である。基盤は東岳から流出した土石流を含む扇状地性低湿地である。縄文時代以降も、度重なる土石流の影響を受け、遺構には砂礫が堆積する。このような環境下で、縄文時代の遺構は微高地に立地することがわかった。今回の調査区は本遺跡における住居跡分布の南限である。さらに、土器棺墓は、後期前葉における住居跡と墓の配置を考える上での好例であろう。</p> <p>中世に入ると、扇状地全体にカマド状遺構と井戸跡が多数作られる。構築時期は、世紀初めから世紀初頭までの約 年間にわたる可能性がある。これらの遺構は、検出数及び配置から相互に関連する施設として利用された可能性が高い。立地環境から、水を多量に必要とする作業が想定される。さらに、屋外に多数構築された背景には、流通交易を目的とする加工の製品の生産の場となった可能性もある。今回、建物に関連する遺構が初めて確認された。これらも縄文時代同様、微高地に立地することから、遺跡北側の微高地および緩斜面地に建物に関する遺構の存在が想定される。今後の調査では、さらなるカマド状遺構の性格と、建物を含めた中世の生産の場と生活の場の様相を伺えることが期待される。</p>
-----	---

青森県埋蔵文化財調査報告書 第 集

米山 2 遺跡

- 青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 -

発行年月日 年 3 月 日
 発 行 青森県教育委員会
 編 集 青森県埋蔵文化財調査センター
 〒 - 青森市大字新城字天田内 -
 TEL - - FAX
 印 刷 所 株式会社新印刷興業
 〒 - 青森市大字野木字野尻 -
 TEL - - FAX - -